



6月26日 旧野首教会にて

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

カラオケどうぞ

主任司祭 岩崎 晋吾

先日、新聞を読んでおりまして、中国の長江南地域に「歌垣」という行事がありました。その歴史の研究を行っている人の記事がありました。結婚相手や恋人を求めて男女が集まり、即興の歌を交わして自分の思いを伝えるという行事でして、古代日本にも同じような歌会の集いが行われていたのだそうです。天皇主催歌御会の「歌会始」は有名ですが、思いや体験を歌にすることは情緒を感じます。しかし心の表現方法としては、この時代あまり主流ではないようにも思えます。

聖アウグスティヌスは歌う人は2倍祈ると言っておりますが、祈りもメロディーに乗せるとさらに思いが相手に届くことになるのでしょうか。確かに言葉がなくとも悲しいメロディー、楽しいリズムがその場の雰囲気を作るのですから音楽は力をもつ

ています。教会においても歌の役割は重要です。賛美、感謝、願いやなどを込めて歌います。聖歌が、ただ耳に聞こえてくる「音」になってほしくありません。

「笛吹けど踊らず」という言葉は、多くの人が知っている聖書の言葉です。

「笛を吹いたのに踊ってくれなかった。吊いの歌を歌っているのに泣いてくれなかった。」心から生まれた音が、相手に響かないのは空しく寂しいものです。人の「無関心」が思いを込めた音を受け止められなくなっているのでしょうか。それとも現代人は心を歌に込めることにあまり慣れていないのでしょうか。ところで、神羊館にカラオケがあるのをご存じでしょうか。購入致しました。どうぞご利用下さい。心こめて歌って下さい。思いを伝える訓練をしてみたいかがでしょうか。酒に酔って歌うこともあるでしょう。その方が気持ちが入るといふ人は……それはそれでどうぞ。

井持浦 ルルド祭

愛といつくしみを生きよう
〜聖母マリアのように〜

五月八日、毎年恒例のルルド祭が井持浦教会にて行われました。

マリア様のお恵みによる好天の中下五島の信徒が教会下の町民グラウンドに集まり、花壇に咲き誇るパンジーの側を、祈りと讃美歌を唱えながらマリア様を先頭に教会を目指して聖母行列が進みます。



この日は、『母の日』でもありました。私達の母、聖母マリア様とそれぞれがそれぞれの『母』を想いながら、行列に参加したのではないのでしょうか。御ミサは岩崎神父様の司式により厳粛に行われました。

今から約百五十年前に聖ベルナデッタの前に十八回にわたり御現れ下さった聖母マリアを想い、また、この聖地に集う巡礼者、五島にルルドを創った先人達に想いを馳せながら御ミサは賛美と感謝のうちに終了いたしました。

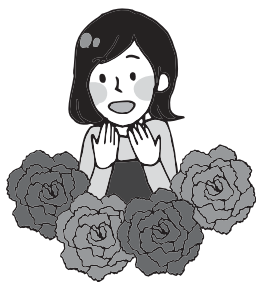
こどもの日、母の日、父の日

昨年引き続き今年もこどもの日、母の日、父の日の祝福をミサ内にて行いました。それぞれ今年も、お菓子をカーネーション、栄養ドリンクを頂きました。それぞれの日はどのようなし



てお祝いされるようになったか調べてみると、こどもの日は昔からある端午の節句が一九四八年に国民の祝日として制定されています。次いで母の日、起源は今から百年以上にアメリカにて亡くなった母親を深く愛していた女性が母親の命日を教会で『母の日』として祝い、その後普及運動にて広まったようです。最後に父の日、これも起源は同じくアメリカにて母親亡き後、男手一つで育ててくれた父親を娘さんが教会にて『父の日』を祝う拝礼をした事によるようです。

あたりまえに思う親や子への愛ですが、改めて感謝する気持ちにする日がある事で表現しやすいのかなと思います。



ありがとうございます

富上 成美

はじめに浦頭教会の信徒のみなさまに、この紙面をお借りして帰省のご挨拶と、聖マルティンの家への様々な形でのご支援のお礼を申し上げます。三月の野原昭子（聖マルティンの家創設者）とマリア・ルース（利用者）の訪問の際もお話をさせていただき、また細やかな配慮をいただきまして、彼女たちもとても感謝しております。二人とも、みなさまの行き届いた受け入れのおかげで、四月十九日にボリビアに無事に到着し、マリア・ルースは日本での体験をみんなに話してくれました。長年に亘ってご支援いただきましたる方々に、直接お礼が言えなことを特に喜んでいました。聖マルティンの家のみならず、みなさまとご家族のことをいつもお祈りしております。どうぞ、これからもよろしくお願い致します。

剪定作業

シメオン・アンナ友の会

五月三十日、教会の植木の剪定作業が二十三名の会員で行われた。

予定は五月二十九日となっていたが、あいにくの雨となり、翌日の作業となったが、当日は真夏を思わせる日差しで、老体の会員はそんなことは何のその、手際よく作業を進めて行く。

木の枝を剪定する人、草取りをする人、綺麗に掃除をする人、それぞれが自主的にてきぱきと働き、三時間で終わることが出来た。宮原教会でも七名の会員で作業を行い、見違えるほどの作業も、段々と厳しくなりませんが、くれぐれも体調を考えながら出来る範囲で努めましょう。お疲れさまでした。



『あん』の上映会

七月十七日に「あん」の上映会が行われました。三連休の日で来れた方は少なかったのですが、本当に見たい方が来られたのかなと思いつつも、もつとたくさの方々に見て頂きたかったと思いました。

この映画は、二〇一五年度の「日本カトリック映画賞」を受賞した作品で、あるどら焼き屋さんに老女が訪ねて来るところから物語が動き出します。

この老女（徳江さん）は、ある事情を抱えながらも働きたいという気持ちを一心に、この店の雇われ店主である千太郎に伝えます。「時給は二百円でいい」とまでも・・・。始めは言葉が濁し断ろうとしていた千太郎も、徳江が持って来た「あん」の味に気持ちが変わります。手が少し不自由という徳江を雇うだけでなく、その「あん」作りを夜明け前から手伝うくらい、徳江

の作る「あん」が素晴らしかったのです。その味は客にも伝わり、行列ができるまでになりました。徳江がハンセン病という事。桜咲く頃に徳江が訪ねてから、その葉が枯れる迄の間に。そして、徳江は店を去ります。とても生き生き働いていたのに。とても考えさせられる事の多い映画で、千太郎の「守れなかった」と言った時、「自分だったら？」と考えましたが、3回見た今も答えは出ません。しかし、少しだけ感じとれた事は、千太郎が徳江の「あん」の素晴らしさや「人柄」を知り、心を通わせたように、ハンセン病の誤解を周囲の人が知る事で、また違った状況になったのかなと思います。とてもいい映画ですので、一度ご覧下さい。ゲオにあります。



旧野首教会巡礼 を終えて

入口 信

巡礼当日の六月二十六日は、梅雨入り真っ只中であり天候が心配されたが、神様からのお恵みによって快晴の中で巡礼する事ができました。

当初、企画された壮年部で定員五十名に達せず、日曜日のミサで岩崎神父様より、壮年部以外からの参加を呼び掛けたところ、その日のうちに定員に達し、キャンセル待ちになるほど応募があったと伺いました。

巡って当日、十時前に奥浦港へ向かうと壮年部、女性部、シメオン・アンナ友の会、シスター、子供達と幅広い世代での出港となりました。前日から海のおねりの為に、目指す野崎島へは久賀上五島の右側を通るコース。途中には断崖絶壁の岩礁及び釣り人。戸岐大橋と同じ赤い色で周囲の青い海、鮮緑の山々と素

晴らしいコントラストを生み出している頭ヶ島大橋の真下をくぐって行ったりと、景色も楽しませてもらった二時間の船旅。ようやく、目的地の野崎島に到



着しました。

島への上陸がほぼ初めての一行は途中、鹿の群れに見送られ、切り立った斜面の道を登り降りしながら、立て札に従って歩いていきました。ようやく峠を越えると、目の前に草原の丘の上にある建つ教会の横顔（側面）が見えました。

近づいてみると、個人的には、思っていたイメージよりも大き



くないように思いましたが、重厚感ある佇まいで、堂崎天主堂に似た雰囲気がありました。皆、それぞれに写真を撮ったり、建物を見学したりして、昼食前に集合写真を撮パシャリ!!

昼食には廃校を利用した建物を利用して頂き、ゆっくりされる方もいれば、帰り道に時間が掛かる為に、先に歩いて行かれる方もいました。

帰路の海上タクシーでは、途中で若松のクリスタン洞窟にも寄って頂き、大多数が洞窟の中に入り一周していました。

帰港後、午後五時より懇親会として、巡礼参加者及び地域の方々とアルコールを交えて大いに語り合い、盛り上がっていました。

このような機会がないと、なかなか行きたくても行けない島の教会巡礼、有意義な旅となりました。様々な準備で、大変お世話になった壮年部役員の方々、天候のお恵みを与えてくださった神様に感謝致します。



感動・野崎島

木口 誠也

数日前から悪天候続きで、天気予報とにらめっこをしながら当日の朝を迎えました。

心配された天候も梅雨の合間の晴天に恵まれ、総勢五十名の巡礼へ出発。海も穏やかで快適な船旅を続けること二時間半。

目的地の野崎島へ到着しました。目に飛び込んできたのは、小さな船着き場に数軒の廃墟、それに数頭の鹿で、こんな場所に教会が本当にあるのか？というのが率直な感想でした。

教会までの道のりは、なかなか険しいものでしたが、途中の綺麗な景観と透明度の高い砂浜の海岸線に感動しながら先へ進み、日本らしからぬ風景の真ん中に赤レンガの小さな教会が目に映りました。

神父様を先頭に、各々教会周りを廻り、堂内に入り祈りを捧げ、元小学校跡地の施設で昼食

を取り、再度険しい道のりを戻って行きました。年配の方々にはキツイ道のりだったと思います。帰りの行程で、普段見れない場所を巡ろうという話になり、若松のクリシタン洞窟に立ち寄る事になりました。海上タクシーをチャーターした故の嬉しい誤算でしたね。



頭をぶつけそうな程の小さい洞窟の入り口を抜け暫く進むと、洞窟を出てすぐの開けた場所に、真っ白な十字架とイエス様の像が私達を出迎えてくれました。この場所では、年に一度記念ミサが行われるそうです。



— 若松・クリシタン洞窟 —

長い船旅の後、神羊館で地域の方々を交えての懇親会が開かれ、それぞれ今日の巡礼の事や地区や地域の話、さらにゲストに野口市長を加え、今後の奥浦や五島についての話等で大いに盛り上がり、それぞれ多くを語り、楽しい一時を過ごされてきました。

今回の巡礼にあたり、企画、準備して下さった壮年部の方々、また自己負担しながらも快く参加して下さいました。また祈り、願いに応え、良い巡礼にして下さった神様に感謝致します。ありがとうございます。

おたより

「島のひかり」を送って頂きありがとうございます。

浦頭教会の皆様のお祈りと「島のひかり」を通して、ふるさとの様子を知ること、近くに居る者も、遠くに居る者も、大きな喜び、支えとなつていきます。浦頭教会の皆様のためにもお祈りいたしております。

藤沢修道院

Sr 大川ヨシノ

ありがとう

暑い中、皆様からの心温まるおたよりや御芳志をいただき、ありがとうございます。

- 諫早市 木口 涼 様
- 大阪府 米井 カオル 様
- 浦頭 出口 ツル子 様
- 佐世保市 松田 トミ子 様
- 愛知県 浜辺 京子 様
- 神奈川県 聖心の布教姉妹会
- 大川 ヨシノ 様

聖母月の祈り

五月は聖母マリアを賛え、ロザリオを唱えるのが昔からのカトリックの教えです。

月曜日から木曜日まで夕方教会に集まり、元気よい子ども達の祈りと聖歌は、天にも届く勢いでした。参加者は来年、初聖体を受ける三名と、小学生二十名と大人が数名でマリア様を賛えることが出来ました。子ども達に感想を書いていただきました。

二年 小田そうみ

せいぼげつのおいのりをしてわたしは、アベマリアのいのりをして、あまり玉をかぞえきれなかったけれど、大きいこえて、ときとうにいわなかったけれど、じょうずにできてうれしかったです。

せい母月のおいのりをして

四年 鍋内 理子

わたしが、せい母月で、がんばったことは、大きな声で最後までおいのりをする事です。いつもよりおいのりをする時間ながいので、毎年ねむたくなっていました。でも、大きな声でおいのりをする、今年は、ねむたくなりませんでした。10月は、またねむたくなりませんように、大きな声でおいのりをしたいです。がんばります。

聖母月で

四年 小田 凜花

私は、たくさんの数の玉を、「アヴェマリアの祈り」で、とれました。たくさんの人がやっていたので、「この、カトリックを、愛しているんだなあ。」と、思いました。私も一生けん命お祈りをし、神様に、伝えられたのでよかったです。

聖母月のこと

四年 鍋内 楓蓮

私は、ロザリオをしてアヴェマリアのいのりと、天のいのりを、かんぺきに、おぼえられました。ねむかったけど、がんばって、声をだせてうれしかったです。次の、ロザリオでは、もつとがんばって、人のことも考えてなかったから、次は、考えたいです。

聖母月

五年 鍋内玖怜彩

私はロザリオに参加して、すぐねむたかったです。でも一生懸命祈れたので良かったです。ロザリオはすごく長くてたまにはしてなったけど、しっかり祈れたし、体の不自由な人、体調が悪い人のためにがんばって祈れて良かったです。10月の目標は、毎日一生懸命祈ることです。

叩の花匂つ垣根

夏は来ぬ!

梅雨明けが待ち遠しく思う雨空が続いているなか、七月十日奉仕作業が行なわれました。

壮年会、女性会による毎年恒例の作業です。小雨混じりの中、刈払機の轟音とともに始まり、途中『はげボウズ』を思わせるかのような大粒の雨もありましたが、手馴れた皆さまのことで、立木や草花一本にも気を配り、無事終わることが出来ました。

スッキリと夏の装いになりました。堂崎教会、半泊教会教区信徒の祖先から伝わる、弛み無い信仰心で支えられているものです。



聖母祭

平和のぼら
保育園

五月二十一日、この日は天候にも恵まれ、保育園では聖母祭が行なわれた。先ず慈恵院前のマリア像の前で、お祈りと聖歌花まきをしてミニ行列。保育園のマリア像の前でも同じように行なわれた。

この日は、お父さん、お母さん、じいじ、ばあばも参加しての聖母行列でした。保育園の建物を一周してホールに入り、お祈りと聖歌を元氣よく。そして岩崎神父様のお話があり、

「行列の時のマリア様は、前向きで外方を向いているのでマリア様は後向きにして皆さんを見守っている方が良いのでは、玉ノ浦のルルド祭でも同様」この事を聞いた時、はじめてそうだなあと思った。

最後にマリア様にそれぞれ献花をして終了しました。園児達がマリア様のような優しい心で成長しますように、と手を合わせます。

夏祭り



今年も暑い夏がやって来た。七月十七日、奥浦慈恵院では恒例の夏祭りが行なわれた。

会場には、様々な食物の店が並び、集まった人達は溢れんばかりでした。それぞれ食べながら、一番の楽しみは宝くじの抽選会で、当たった人の笑顔で会場は明るくなったが、当らなかつた人の帰路は何となく足が重い。それも人生の一ページです。

「ふる里は……」

諫早 木口 涼

「ふる里遠くにありて思うもの」ふる里は離れてみて、はじめてその大切さに気づきます。ちょうど子供が親元を離れ、あるいは親を亡くして初めて親の愛情に気づくように……

私が育った小学生時代の「ふる里浦頭」それは、ちょうど第二次世界大戦の真っただ中。そ

れはそれは、厳しい厳しい、現代では考えられない時代でした。そんな極限の生活の中でも、私の小さい心にもいつも素晴らしい感動を与えてくれました。

どこまでも青い空、深いコバルトブルーの海、澄みきった川の流れ、小鮒をはじめ、小えび、手ながえび、かになどの泳ぐ、自然がいっぱいの大好きな光景でした。大げさな表現をすれば、旧約聖書の「天地創造」の場面を黙想させてくれるのです。

ふる里を離れたのは二十五歳の時。それから五十八年の長い時間が経過しているのに、今でも小学生時代のふる里が、次から次と走馬燈のように浮かんでくるのです。

その中で、特に信仰教育として小学生時代に教わった「公教要理」

「人にもっとも必要なものはなんですか」

「人にもっとも必要なものは宗教であります」

「宗教とはなんですか」

「宗教とは天主に対する人の道であります」

旧浦頭教会の下に司祭館兼「けいこ部屋」があり、そこで、あるいは教会裏山の椿の木の上で、同級生と「人にもっとも必要なものは宗教であります」と大声を出し覚えたものです。今でもこの二問だけは、はっきり覚えており、私の信仰の土台となっています。

「ふる里」とは、何時の時代でも遠くにいれたいほど、また、すぐそばにいても誰でもが忘れることのできないもの、心の中であたたためているもの、それが「ふる里」です。

年老いてくればくるほど「ふる里」への思いは募るばかりです。

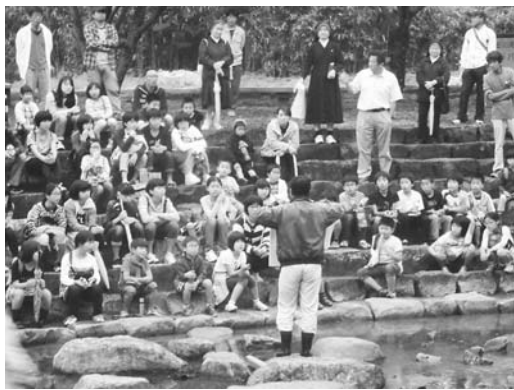
「島のひかり」は、私にとって信仰のふる里との強い絆、毎回楽しみに待っております。

岩崎神父様をはじめ編集委員の皆さん、浦頭小教区の皆さんの上に神の豊かな祝福がありますように……

ふるさとだよ

蛍鑑賞会を終えて

奥浦地区で行なうのは第五回目になり、初夏の風物詩として定着した同会。今年は、昨年話題になった昆虫映画「アリのままでいたい」を上映。子供達は、自然の不思議さに目を輝かせていた。その後、涼感に乗せながら、青竹の水路を流れて来るソーマンに舌つづみを打ちつつ、昔遊びに興じる。最後は、奥小のカップ公園に舞う小さな光達を追いかけていた。



出口氏による蛍講話 “カップ公園にて”

いざ奥浦地へ

鉄人達の夏



六月十九日、千名弱のアイアンマン達が、遠泳と五島灘を往復する様な距離に及ぶ自転車走を終え、最後の難関、フルマラソンに足を踏み入れる。途中のステーションでは「体全体に水をかけて。」とか、後に来る仲間と共に走る事を決めて、寝そべって待つ選手とか、千差万別色模様を残しつつ、夕闇の中、後ろ姿が小さくなっていった。

ペタンク県大会に参加して

赤尾喜代美

平成二十七年五月十四日、第十三回、長崎県ねりんピック大会に出場しました。一チーム三人、赤尾 栄さん、赤尾スエミさん、私、そして監督として中里徳美さんで参加しました。

五島大会で三位に入り、県大会へ。会場は、諫早なごみの里運動公園。今年が最高で、百三十二チームが集まりました。予選三戦を行い、私達浦頭チームは二勝一敗でした。トーナメントには進む事ができませんでしたが、色々良い勉強になったと思います。五島でも、試合の時は緊張してドキドキしていますが、県大会にもなると、もっと緊張してゲームが思うようにできませんでした。来年に向けて、又、練習を頑張っていきたいと思います。たくさん応援、ありがとうございました。

編集後記

私は結婚洗礼で音楽の聖人セシリアを受けた。夫婦で聖歌隊に誘われた時は嬉しかった。

九年前に主人と死別。私は体調を崩し、リハビリ無しでは首はまわらず、声も出なくなり最悪で小ウツ状態に。外見は仕事にも行くニコニコ元氣印、内では一人ボッチ：成り行きで世間知らずの私は、新たに趣味を二つふやすも歌えば念仏、踊ればロボットと場違いな所にいた。先生方は超一流。共に忍耐強く気が長かった。そして仲間もでき五年が。体調は相変わらず、下手と言われようがめげず、他の趣味も同様に頑張っている。レッスン場は人の温もりを横に感じつつ、ありのままの自分を出せる癒しの場所。ダメ出しにも多少の愛を感じながら、いっしかボッチを卒業：。振り返れば、つらいリハビリは神からの励まし。いつかききと明日を信じる心に寄り添ったのはセシリア。

七月に62歳になる。そろそろ完全復活かな？又、耳にタコができるの声聞こえてきそう：

江口 初子